

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づき「自主・自律」の心を育み、「己を鍛え、己を磨き、ともに切磋琢磨する」「他を思いやり、己を大切にできる」人材を育成する。

- 1 将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送ることができる学校をめざす。
- 2 普通科専門コース制を有する学校として、各コースの特色を活かすとともに、自己の興味・関心を自己実現へとつなげていく。
- 3 「Smile&Positive」をスローガンに、笑顔絶やさず常に前向きに何事にも取り組む人材の育成をめざす。

2 中期的目標

1 学ぶ力の育成

(1) 主体的に学ぶ習慣の育成を図り、総合的な学力の向上を図る。

- ア 授業の準備と振り返りを常に行い、主体的に学ぶ態度を育成する。
- イ 主体的・対話的で深い学びが行えるよう授業展開を工夫して生徒の学習意欲を向上させ、学習内容の定着を図る。またこれにより一斉講義形式の授業からの脱却をさらにすすめる。
- ウ 学力生活実態調査等を活用しながら、生徒の学びの習慣や学習への取り組み状況、学習到達度の推移を把握し、指導法の改善等を追究していく。
- エ 授業外の校内での学習活動の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム（会議室）、アドバンス学習室（視聴覚室）の積極的な活用を行う。
- オ 学習産業の教材も活用しながら、効率的に「朝学」にも取り組み、漢字・英単語の学習、読解力の育成等に取り組み、その予習・復習を促しながら家庭での学習習慣の定着を図る。

※学校教育自己診断（生徒）「本校の授業を十分に理解するためには、予習や復習が必要である。」の肯定率を3年後に75%にする。（令和元年度55%、令和2年度60%、令和3年度64%）。

学力生活実態調査で、1年生の間に生徒のゾーン占有率の低下をできるだけさせない。3年後にはBまでの人数の全体に対する割合を40%、同じくDの割合を8%以下とする。（Bまでの割合：令和元年度23%、令和2年度32%、令和3年度31%、Dの割合：令和元年度16%、令和2年度16%、令和3年度15%）

(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 様々な教科・科目で単元・題材等内容のまとまりや区切りの中で、パフォーマンス課題等に取り組みせ、生徒に自分の学習状況を常に振り返らせ、グループワーク・班別討論～発表・相互評価活動に取り組みせる。また、日々の授業では教員の発問による授業展開の組み立てを研究しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげていく。
- イ 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践（指導）・評価・改善による、指導と評価の一体化をすすめる。
- ウ ICT 機器を効果的に活用しつつ、1人1台のパソコンの活用をさらに進め、様々な指導法や教授法、さらにコミュニケーションツールとしての活用等の工夫に努める。

※学校教育自己診断（生徒）「本校の授業で、『自分で考える力』が身についた」の肯定率を3年後に75%に（令和元年度61%、令和2年度67%、令和3年度69%）、同じく「本校の授業等で、『物事に対する理解力』が、以前より身に付いてきていると思う」の肯定率を3年後に75%に（令和元年度61%、令和2年度68%、令和3年度72%）する。また、（保護者）「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」（令和元年度43%、令和2年度45%、令和3年度45%）の肯定率を3年後に60%にする

(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成し、社会で生き抜く力と自己表現力を身につける。

- ア 各教科の授業に加えて学年の取組みや学校行事等を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。
 - イ 国際共通語としての中心的な役割を果たしている英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成する。
- ※学校教育自己診断における「本校の授業等で、『発表する力』（プレゼンテーション能力）が身に着いた」の肯定率を3年後に80%にする（令和元年度55%、令和2年度61%、令和3年度67%）。同様に、「本校の授業等で、『相手とコミュニケーションする力』が身に着いた」の肯定率を3年後に80%にする（令和元年度63%、令和2年度67%、令和3年度73%）

(4) 生徒の進路実現の支援

- ア 3年間の進路指導方針・計画の作成し、進路希望に合わせた進路指導および情報提供、進学講習等を計画的に実施し、早い段階での進路意識の醸成に努める。
- イ 校内における進学講習や補習および土曜講習の拡充、夏季勉強合宿の継続及びone_day 勉強合宿の拡充をめざす。
- ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。

※4年制大学進学率60%を維持する。

※土曜講習や夏季勉強合宿及びone_day 勉強合宿の参加生徒参加率（9日間のべ人数）を3年後に150名にする（令和元年度土曜講習62名勉強合宿32名、令和2年度土曜講習35名コロナのため合宿中止、令和3年度土曜講習参加者34名、one_day 勉強合宿120名）

※学校教育自己診断における「本校では、進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率を3年後に88%にする。（令和元年度65%、令和2年度69%、令和3年度75%）

2 自らの将来を見据え、将来の寄って立つぶれない軸を形成する取組みの推進。

(1) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進

- ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探究の時間」を活用して推進する。
- イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更先に先にある職業意識を育む。

※将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を3年後に88%にする。（令和元年度79%、令和2年度79%、令和3年度82%）

(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成

- ア 様々な分野・年齢の講師による講演等計画的な人権教育を実施し、豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するためにいじめに関する校内組織を中心に組織的に取り組む。
- イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。
- ウ 集団活動を通して、他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できる人間性を育む。

※学校教育自己診断（生徒）「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率を3年後に88%に（令和元年度77%、令和2年度77%、令和3年度82%）、「本校入学後、自分は前より成長したと思う」の肯定率を3年後に88%にする。

3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

ア 時間管理（自己管理）と時間を守るという意識の向上を図ると同時に、授業のベル即開始を徹底する。

イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行。

ウ 「薬物乱用防止」、「情報リテラシー・モラル」の育成に努め、特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取り組みを行う。

エ 「挨拶」・「服装」・「頭髪」・「規律」・「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、家庭との連携のもとに日常の学校生活のあらゆる場面において全ての教員が積極的に生徒に声をかけ指導する。また地域連携も含め「交通安全講習」等の講習会を実施する。

学校教育自己診断（生徒）「学校生活について先生の指導には納得できる」（令和元年度 51%、令和2年度 54%、令和3年度 58%）、（保護者）「本校の生徒指導の方針に共感できる」（令和元年度 58%、令和2年度 60%、令和3年度 60%）、「本校の生活指導は、家庭との連携のもとに行われている」（令和元年度 43%、令和2年度 42%、令和3年度 45%）の肯定率をそれぞれ3年後に70%、70%、60%にする。

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。

イ 文化祭や2月祭で文科系クラブ等の生徒の学習の成果の発表の機会を設ける。

ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。

エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。

オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、語学研修や海外の高校との交流（オンラインも含めた）を促進する。

※学校教育自己診断の生徒「学校行事および部活動における平均肯定率」を3年後に80%にする。（令和元年度 69%、令和2年度 72%、令和3年度 75%）

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けて取り組む

(1) 分掌部会等の開催と他分掌や学年との連携を高める

ア 業務の継承を行い、業務の効率化について検討をすすめる。業務マニュアルの見直しを含めて総括を行い、次年度への改善点の洗い出しを行う。

イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。

ウ 分掌間、分掌と学年の連携を高めるための取り組みを実践する。

※学校教育自己診断の「本校では、様々な教育問題に対して、学校全体で日常的に話し合っている」、「HR 運営や生徒指導等について教職員の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率を3年後に60%にする。

(2) 教員の働き方改革への取り組みを推進

ア 毎月の安全衛生委員会で、教員の時間外在校時間を報告し、新たな取り組みを検討していく。

イ 様々な会議資料の事前配付により、会議の効率化、ペーパーレス化を図る。

ウ 運営委員会や職員会議に向けては、事前に検討課題を関係部署に提示して意見集約をしておき、検討～決定のプロセスをスムーズにし、見える化をしながら会議時間の短縮を図る

※職員会議の時間について50分以内を目標とし、その後にミニ校内研修の実施を年間10回以上行う。

(3) オンライン授業の構築と取り組みの推進

ア GIGA スクール構想に向け、校内環境のさらなる整備と休校等の際の学びの保障（動画配信・オンライン授業）、教材配信の実施に向けた対策を講じる。

イ 日常の授業でも1人1台の活用をすすめ、オンライン授業に切り替えてもスムーズに生徒が取り組めるように取り組む

※学校教育自己診断（生徒）の「本校の授業では、ビデオやコンピュータを活用している」の肯定率を3年後には88%にする。（令和元年度 73%、令和2年度 78%、令和3年度 81%）

(4) 広報活動と地域連携の充実

ア ホームページの全面改訂に伴い、適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。コロナ禍の中であっても、学校説明会や中学校との連携（中学校訪問など）をさらに充実させ、広報活動に取り組む。

イ 創立50周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。

※学校教育自己診断（保護者）「本校は、教育活動の中身について、学年便りやホームページで情報提供している」の肯定率を3年後に80%にする。（令和元年度 69%、令和2年度 76%、令和3年度 73%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
.	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学ぶ力の育成	<p>(1) 主体的に学ぶ習慣の育成を図り、総合的な学力の向上を図る ア 主体的に学ぶ態度の育成 イ 授業展開を工夫して生徒の学習意欲を向上させる ウ 学習到達度の推移を把握し、指導法の改善 エ 授業外の校内での学習活動の充実 オ 学習習慣の定着を図る</p> <p>(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実践</p> <p>イ 指導と評価の一体化をすすめる ウ 様々な指導法や教授法の工夫に努める。</p> <p>(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成する ア コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。 イ 英語の4技能をバランスよく育成する。</p> <p>(4) 生徒の進路実現の支援 ア 早い段階での進路意識の醸成に努める。 イ 進学講習、one_day 勉強合宿の拡充 ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進</p>	<p>(1) 主体的に学ぶ習慣の育成を図り、総合的な学力の向上を図る。 ア 授業の準備と振り返りを常に行い、主体的に学ぶ態度を育成する。 イ 主体的・対話的で深い学びが行えるよう授業展開を工夫して生徒の学習意欲を向上させ、学習内容の定着を図る。またこれにより一斉講義形式の授業からの脱却をさらにすすめる。 ウ 学力生活実態調査等を活用しながら、生徒の学びの習慣や学習への取り組み状況、学習到達度の推移を把握し、指導法の改善等を追究していく。 エ 授業外の校内での学習活動の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム(会議室)、アドバンス学習室(視聴覚室)の積極的な活用を行う。 オ 学習産業の教材も活用しながら、効率的に「朝学」にも取り組み、漢字・英単語の学習、読解力の育成等に取り組み、その予習・復習を促しながら家庭での学習習慣の定着を図る。</p> <p>(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。 ア 様々な教科・科目で単元・題材等内容のまとまりや区切りの中で、パフォーマンス課題に取り組ませ、生徒に自分の学習状況を常に振り返らせ、グループワーク・班別討論～発表・相互評価活動に取り組ませる。また、日々の授業では教員の発問による授業展開の組み立てを研究しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげていく。 イ 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践(指導)・評価・改善による、指導と評価の一体化をすすめる。 ウ ICT機器を効果的に活用しつつ、1人1台のパソコンの活用をさらに進め、様々な指導法や教授法、さらにコミュニケーションツールとしての活用等の工夫に努める。</p> <p>(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成し、社会で生き抜く力と自己表現力を身につける。 ア 各教科の授業に加えて学年の取組みや学校行事等を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。 イ 国際共通語としての中心的な役割を果たしている英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく育成する。</p> <p>(4) 生徒の進路実現の支援 ア 3年間の進路指導方針・計画の作成し、進路希望に合わせた進路指導および情報提供、進学講習等を計画的に実施し、早い段階での進路意識の醸成に努める。 イ 校内における進学講習や補習および土曜講習の拡充、夏季勉強合宿の継続及びone_day 勉強合宿の拡充をめざす。 ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。</p>	<p>(1) ア 授業アンケート結果における「授業に対するあなたの取組」令和3年度95%を維持する イ 学校教育自己診断(生徒)「本校の授業を十分に理解するためには、予習や復習が必要である。」の肯定率68%(令和3年度64%)。 ウ 学力生活実態調査で、1年生の間に生徒のゾーン占有率の低下をできるだけさせない。3年後にはBまでの人数の全体に対する割合を34%(令和3年度31%)、同じくDの割合を12%以下(令和3年度15%) エ 生徒向け学校教育自己診断の「授業以外にも、補習や講習が充実している」の肯定率72%(令和3年度69%) オ 生徒向け学校教育自己診断の家庭学習時間(1時間以上)の時間を確保している割合40%(令和3年度37%)</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断(生徒)「本校の授業で、『自分で考える力』が身についた」の肯定率72%(令和3年度69%) イ 「本校の授業等で、「物事に対する理解力」が、以前より身に付いてきていると思う」の肯定率75%(令和3年度72%) ウ 同(保護者)「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」の肯定率50%(令和3年度45%)</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断における「本校の授業等で、『発表する力』(プレゼンテーション能力)が身に着いた」の肯定率70%(令和3年度67%) イ 「本校の授業等で、『相手とコミュニケーションする力』が身に着いた」の肯定率75%(令和3年度73%)</p> <p>ア 4年制大学進学率60%を維持。および土曜講習や夏季勉強合宿及びone_day 勉強合宿の参加生徒参加のべ人数を150名(令和3年度のべ120名) イ 学校教育自己診断における「本校では、進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率78%(令和3年度75%) ウ 外部模試の分析会年間2回実施の維持と、生徒向け模試の解答解説会の実施</p>	

<p>2 将来の寄って立つ軸を形成する取組みの推進</p>	<p>(1) キャリアデザインの推進 ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる イ 職業意識を育む。</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 講演等計画的な人権教育を実施 いじめの未然に防止に組織的に取り組む。 イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる ウ 他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できる人間性を育む</p>	<p>(1) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進 ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探究の時間」を活用して推進する。 イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更にある職業意識を育む。</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 様々な分野・年齢の講師による講演等計画的な人権教育を実施し、豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見 ・解決するためにいじめに関する校内組織を中心に組織的に取り組む。 イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。 ウ 集団活動を通して、他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できる人間性を育む。</p>	<p>(1) ア 将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 85% (令和3年度 82%) イ 同上</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断（生徒）「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率 84% (令和3年度 82%) イ「本校入学後、自分は前より成長したと思う」の肯定率 84% (令和3年度 82%) ウ 同上</p>	
<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行 ア 時間管理（自己管理）の意識向上 イ 挨拶の励行 ウ 「薬物乱用防止」、「情報リテラシー・モラル」の育成 エ 規範意識を高める</p> <p>(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。 ア 部活動充実 イ 成果発表の機会を設ける。 ウ 部活動を中心とした清掃活動 エ 生徒会活動や学校行事の活性化 オ 語学研修や海外の高校との交流</p>	<p>(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。 ア 時間管理（自己管理）と時間を守るという意識の向上を図ると同時に、授業のベル即開始を徹底する。 イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行。 ウ 「薬物乱用防止」、「情報リテラシー・モラル」の育成に努め、特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないよう取組みを行う。 エ 「挨拶」・「服装」・「頭髪」・「規律」・「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、家庭との連携のもとに日常の学校生活のあらゆる場面において全ての教員が積極的に生徒に声をかけ指導する。また地域連携も含め「交通安全講習」等の講習会等、保護者への情報提供・発信を行い、取組みに対する連携を図る。</p> <p>(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。 ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。 イ 文化祭や2月祭で文化系クラブ等の生徒の学習の成果の発表の機会を設ける。 ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。 エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。 オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、語学研修や海外の高校との交流（オンラインも含めた）を促進する。</p>	<p>(1) アイ 学校教育自己診断（生徒）「学校生活について先生の指導には納得できる」の肯定率 60% (令和3年度 58%)、 ウ 同（保護者）本校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定率 65% (令和3年度 60%) エ 「本校の生活指導は、家庭との連携のもとに行われている」の肯定率 55% (令和3年度 45%)</p> <p>(2) 学校教育自己診断の生徒「学校行事および部活動における平均肯定率」の肯定率 80% (令和3年度 75%)</p>	

<p>4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり</p>	<p>(1) 分掌部会等の開催と他分掌や学年との連携を高める ア 業務の効率化について検討をすすめる イ 運営委員会等の既存組織を中心として活用推進 ウ 分掌間、分掌と学年の連携を高める</p> <p>(2) 教員の働き方改革への取組みを推進 ア 毎月の安全衛生委員会で、新たな取り組みを検討 イ 会議の効率化、ペーパーレス化を図る。 ウ 検討～決定のプロセスをスムーズにして会議時間の短縮を図る</p> <p>(3) オンライン授業の構築と取組みの推進 ア 校内環境のさらなる整備とオンライン授業実施に向けた対策を講じる。 イ 日常の授業でも1人1台の活用をすすめる</p> <p>(4) 広報活動と地域連携の充実 ア できるだけ多くの情報発信に努める 学校説明会や中学校との連携をさらに充実させ、広報活動に取り組む。 イ 生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。</p>	<p>(1) 分掌部会等の開催と他分掌や学年との連携を高める ア 業務の継承を行い、業務の効率化について検討をすすめる。業務マニュアルの見直しを含めて総括を行い、次年度への改善点の洗い出しを行う。 イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。 ウ 分掌間、分掌と学年の連携を高めるための取り組みを実践する。</p> <p>(2) 教員の働き方改革への取組みを推進 ア 毎月の安全衛生委員会で、教員の時間外在校時間を報告し、新たな取組みを検討していく。 イ 様々な会議資料の事前配付により、会議の効率化、ペーパーレス化を図る。 ウ 運営委員会や職員会議等各会議において、事前に検討課題を担当者や関係部署に提示をして意見集約をしておき、検討～決定のプロセスをスムーズにし見える化をしながら、会議時間の短縮を図る</p> <p>(3) オンライン授業の構築と取組みの推進 ア GIGA スクール構想に向け、校内環境のさらなる整備と休校等の際の学びの保障（動画配信・オンライン授業）、教材配信の実施に向けた対策を講じる。 イ 日常の授業でも1人1台の活用をすすめ、オンライン授業に切り替えてもスムーズに生徒が取り組めるように取り組む</p> <p>(4) 広報活動と地域連携の充実 ア ホームページの全面改訂に伴い、適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。コロナ禍の中であっても、学校説明会や中学校との連携（中学校訪問など）をさらに充実させ、広報活動に取り組む。 イ 創立50周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の「本校では、様々な教育問題に対して、学校全体で日常的に話し合っている」の肯定率 50%（令和3年度 39%） イ 「HR 運営や生徒指導等について教職員の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率を 50%（令和3年度 42%） ウ 運営委員会をできるだけ毎週行い分掌学年の情報交換を密にしていく。また、職員会議の時間について 50 分以内を目標とし、その後にミニ校内研修の実施を年間 10 回以上行う。</p> <p>(2) アイ 職員会議の時間について 50 分以内を目標とする。また、職員会議だけでなく各会議時間の短縮のため、資料のペーパーレス化、事前配付を行い、会議の効率化を図る。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断（生徒）の「本校の授業では、ビデオやコンピュータを活用している」の肯定率 84%（令和3年度 81%） イ 同上</p> <p>(4) ア 学校教育自己診断（保護者）「本校は、教育活動の中身について、学年便りやホームページで情報提供している」の肯定率 76%（令和3年度 73%） イ 総合企画部を中心に、同窓会との連携を高めていく。</p>	
------------------------------------	--	--	---	--